

eviDaemon for PAdES ver.6.0における変更点

本書はリリースノートの下位文書です。Ver.5系からVer.6系にアップデートするにあたって、特にお客様側でご認識いただく必要がある改修内容について記載します。

■ コマンドラインツール全般

・設定ファイルの変更

XML ライブラリのサポートが古くなったため、JSON 形式の取り扱いに移行しました。

設定ファイル名が「cli-config.xml」から「evip-client.conf」に変更になりました。

一部の設定項目に追加・変更があります。変更点については『操作マニュアル』をご確認ください。

・標準入力、標準出力の廃止

標準入力によるファイル入力及び標準出力によるファイル出力は廃止しました。引数によるファイル入出力を使用してください。

・コンソール出力の変更

実行時のコンソール出力が標準エラーのみから、INFO レベルの情報は標準入力、ERROR/WARN レベルの情報は標準エラーへの出力に変更しました。

・-useNopSslHostnameVerifier の変更

-useNopSslHostnameVerifier は JVM 全体に影響する設定のため廃止しました。同等の機能を持つ-useNopSslTrustManager を追加していますのでこちらを使用してください。

・同名ファイルのバックアップ世代数の変更

ファイル処理時に移動先フォルダに同名ファイルがあった場合の退避処理について、バックアップ世代数を10から制限なしに変更しました。

・uriPrefix について

サービス URL の設定で、「/basic」部分が省略可能になりました。

・retryInterval の追加

ネットワーク設定に、通信リトライを行うための設定を追加しました。

・errorCommand の追加

errorCommand を全てのコマンドで使用可能にしました。

■ 署名・タイムスタンプツール (PdfSignTs)

・署名タイプ ES-A の変更

ES-T を付与した PDF に対して ES-A を付与した場合、旧版ではタイムスタンプのみを付与していましたが、署名とタイムスタンプを付与するようになりました。

・HPKI 非対応

本バージョンでは HPKI 向けオプション (-minRemainingDaysInEndValidityPeriod、-requiredHcActorSet、-complementCertChainFromPool) は非対応となります。

■ 検証ツール (PdfSignTsVerify)

・-xmlOutDir の変更

XML 形式データの取り扱いを廃止に伴い、-xmlOutDir から -jsonOutDir に変更しました。出力形式が JSON となります。また、出力内容の項目名について標準化された名称に合わせる改善を行っています。

■ フォルダ監視ツール (PdfSignTsWatch)

・-watchType の廃止

既知の問題により、リアルタイム監視「register」及び -watchType の設定を廃止しました。監視モードはポーリング監視「list」固定となります。

・-watchInterval の変更

0 を指定した際に、デフォルト値の 10 秒が適用される仕様になっていましたが、0 秒（即時実行）として適用されるようになりました。

■ 有効期限出力ツール (PdfSignTsExpirationList)

・PDF 以外のファイル対応

入力フォルダに PDF 以外のファイルがあった場合、エラーとしなくなりました。また、有効期限リストファイルには当該ファイルが有効期限空欄で出力されるようになりました。

・未署名の PDF ファイル

有効期限リストファイルに有効期限空欄で出力されるようになりました。

・有効期限リストファイル

ファイルの名前順でソートされて出力するようになりました。

■ ファイル添付ツール (PdfAttachFiles)

・-template の廃止

台紙ファイルのダウンロード機能を廃止しました。それに伴い、ネットワークに関する設定も削除となりました。

・表示ファイル名「fileNameInPdf」の変更

添付ファイルの表示ファイル名が省略可能となりました。指定しない場合は実ファイル名が適用されます。

・ファイル説明「fileDescription」の変更

添付ファイルのファイル説明が省略可能となりました。指定しない場合は設定なしとなります。

■ ログの変更

・ログ設定ファイルの変更

ログ出力ライブラリの変更に伴い、ログ設定ファイルが変更となりました。旧設定ファイルは conf/logback.xml、新設定ファイルは conf/log4j2.xml となります。

・ログファイルの変更

DEBUG レベルのログを出力しなくなりました。

文字コードを UTF-8 に変更しました。

ミリ秒の区切り文字を「,」から「.」に変更しました。

・デバッグログファイルの追加

seiko-pdfts-debug-yyyy-MM-dd.log のファイル名でデバッグログを出力する機能を追加しました。ログファイルはデイリーで圧縮をして保管されます。

■ トラストストア／中間証明書補完ファイルの変更

JKS 形式ファイルの管理からフォルダ・ファイル形式の管理に変更しました。CA 証明書を追加する際は、フォルダに DER/PEM 形式の証明書を配置して、trusted.txt もしくは complement.txt に記載をしてください。

■ API の変更

・SignTsParam.setAppendingDss(boolean)

想定されない PDF を作成できてしまうため、署名を含む PDF を入力した際に、false を指定するとエラーとなる仕様に変更しました。

以上